

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】令和2年3月12日(2020.3.12)

【公表番号】特表2019-506866(P2019-506866A)

【公表日】平成31年3月14日(2019.3.14)

【年通号数】公開・登録公報2019-010

【出願番号】特願2018-540841(P2018-540841)

【国際特許分類】

C 12 Q 1/37 (2006.01)

C 12 P 21/06 (2006.01)

C 12 N 15/57 (2006.01)

【F I】

C 12 Q 1/37 Z N A

C 12 P 21/06

C 12 N 15/57

【手続補正書】

【提出日】令和2年1月30日(2020.1.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

IgGの切断のためのインビトロの方法であって、IgGを：

(a) 配列番号3のアミノ酸配列；

(b) 配列番号3のアミノ酸配列との少なくとも70%の同一性を有し、IgGシステムプロテアーゼ活性を有するそれらの変異体；または

(c) IgGシステムプロテアーゼ活性を有する、(a)もしくは(b)のいずれかのそれらのフラグメント

を含むポリペプチドと接触させることを含む方法。

【請求項2】

前記アミノ酸配列が配列番号3である、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記ポリペプチドを、IgGを含有する試料と、特異的システムプロテアーゼ活性が生ずることを可能にする条件下でインキュベートすることを含む、請求項1または2に記載の方法。

【請求項4】

前記IgGがヒトIgG1である、請求項2に記載の方法。

【請求項5】

前記切断産物の同定および/または単離をさらに含む、前記請求項のいずれか一項に記載の方法。

【請求項6】

前記同定および/または単離が、ゲル電気泳動または質量分析法による分析を含む、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

FcおよびFabフラグメントを生じさせるために使用される、前記請求項のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 8】

IgGを検出するために使用される、請求項1から7のいずれか一項に記載の方法。

【請求項 9】

(i) 試料を、請求項1に記載のポリペプチドと、前記ポリペプチドのIgG特異的システィンプロテアーゼ活性を可能にする条件下で接触させること；および

(ii) IgG特異的切断フラグメントの存在についてモニターすることを含み、前記特異的切断フラグメントの存在が試料中のIgGを示す、請求項8に記載の方法。